

加工用キャベツの機械化一貫体系による産地育成

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

湖北地域では、稲・麦・大豆を基幹とした土地利用型農業が中心ですが、JA 北びわこ管内においては経営の複合化による所得向上を目的に、平成 27 年度から加工用キャベツの生産振興に取り組んでいます。平成 28 年度には、収穫機の導入により機械化一貫体系が確立され、大幅な省力化が実現し、担い手が取り組みやすい環境が整っています。

普及指導センターでは、さらなる面積拡大に向け、作期拡大やさらなる省力化などの仕組みづくりと、収益性改善のための収量向上に取り組みました。

【普及活動の内容】

JA 北びわここと連携し、以下の点に取り組みました。

- ① 面積拡大に伴い作期分散が必要になるため、調査研究において品種比較試験を実施しました。その結果を基に選定した 3 品種を利用し、作期拡大を図りました。
- ② さらなる省力化に必要な乗用型防除機や面積拡大に伴う 2 台目の収穫機などの導入について、国庫事業等の活用や効率的な稼働に向けた支援を行いました。
- ③ 排水対策等の基本技術の改善や省力施肥体系の改善（施用量の調整と生育後期追肥の導入）、病虫害防除のスケジュール化について、研修会と個別指導を行いました。



写真 収穫機 2 台同時稼働

【普及活動の成果】

作期拡大により収穫期間は 10 月から 1 月となり、今年度の栽培面積は 17ha を超えました。また、乗用型防除機の導入に伴い、防除作業の大幅な省力化が図られただけでなく、均一な薬剤散布により防除効果が安定するようになり、病虫害被害も大幅に低減しました。

平均収量については、台風による被害が大きく、目標収量には至りませんでした。しかし、施肥体系の改善などの取り組みにより球重増加の傾向は見られており、今後は気象の影響を受けにくい栽培への改善を支援してきます。

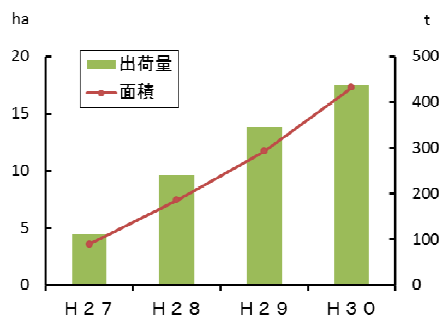


図 栽培面積と出荷量の推移

◎対象者の意見

台風被害があったが、施肥改善などにより昨年以上の収量となった。収益性の目途が立ち、次年度は大幅に栽培面積を拡大したい（Y氏／生産者）。